

わたしたちの義認の結果——

わたしたちの命としてのキリストにある神に対する満ち満ちた享受

聖書：ローマ 5:1-11

- I. 義認は、神の義の標準にしたがってわたしたちを良しと認める、神の行動です。信者たちの義は、彼ら自身において彼らが所有する状態ではなく、彼らが結合されたパースン、すなわち生けるキリストご自身です：
- A. わたしたちはキリストの中へと信じるとき、神の赦しを受け(使徒 10:43)、そして神は、キリストをわたしたちの義とすることによって、またわたしたちの義の衣であるキリストをわたしたちに着せることによって(イザヤ 61:10. ルカ 15:22. エレミヤ 23:6. ゼカリヤ 3:4)、わたしたちを義とすることができます(ローマ 3:24, 26)。
- B. 命は神の救いの目標です。こういうわけで、義認は「命のもの」です。義認を通して、わたしたちは神の義の標準に達し、それと一致します。それによって、彼は今、ご自身の命をわたしたちの中へと分け与えることができます——ローマ 5:18。
- II. わたしたちの義認の結果は、わたしたちの命としてのキリストにある神の満ち満ちた享受です——ローマ 5:1-11：
- A. わたしたちの義認の結果は、以下の六つのすばらしいものに具体化されています。すなわち、愛(5節)、恵み(2節)、平和(1節)、望み(2節)、命(10節)、栄光(2節)であって、これらはわたしたちの享受のためです。これらの節はまた三一の神を、すなわち、聖霊(5節)、キリスト(6節)、神(11節)を啓示しており、それはわたしたちの享受のためです。
- B. キリストの贖う死を通して、神は罪人であるわたしたちを義とし、また彼の敵であるわたしたちをご自身に和解させられました(1, 10-11節)。さらに、「わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれて」います(5節)：
1. わたしたちは患難を受け、貧しくあって、圧迫されるかもしれませんが、わたしたちの内側にある神の愛の存在を否定することはできません。キリストご自身である命の路線にとどまるために(ヨハネ 14:6前半)、わたしたちは自分自身を神の愛、すなわち神ご自身(Iヨハネ 4:8, 16)の中に保つ(ユダ 20-21節)必要があります。
  2. わたしたちは、神が与えてくださった愛の霊を再び燃え立たせる必要があります。それによって、わたしたちは燃える愛の霊を持って、今日の召会の墮落に打ち勝つことができます。わたしたちの霊を再び燃え立たせるとは、絶えずわたしたちの霊を活用する習慣を建て上げて、わたし

たちの霊の中のその霊である主との接触の中にとどまることです——Ⅱテモテ 1:6-7, 4:22。

C. 「わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ……ます」(ローマ 5:2)。わたしたちは信仰によって義とされ、恵みの領域の中に立っているのです。「わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています」(1 節)：

1. 神「に対して」平和を持っているとは、わたしたちが信仰によって義とされることを通して神の中へと入る行程がまだ完了しておらず、今もなお神の中へと入る途上にあることを意味します。ルカ第 7 章によれば、多く赦されたので「多く愛した」罪深い女(47-48 節)に、救われるために「平和の中へと行きなさい」(50 節、文字どおり)と、主イエスは告げました。
2. わたしたちは、いったん義認の門を通ったなら、平安の道を歩く必要があります(ローマ 3:17)。わたしたちが思いを霊に付けるとき(わたしたちの霊を顧慮し、わたしたちの霊を用い、わたしたちの霊に注意を払い、神の霊との交流の中でわたしたちの霊によって神と接触し、わたしたちの霊の中で歩き、生きることによって)、わたしたちの思いは平安となり、安息と解放と明るさと心地よさという内なる感覚をわたしたちに与えます(8:6)。

Ⅲ. わたしたちは恵みの領域の中で、神をわたしたちの勝ち誇ること、また歓喜として持って、享受し喜びます。神の中で勝ち誇るとは、「患難の中でも勝ち誇る」ことです。「それは、患難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです」——ローマ 5:3-4, 11：

- A. 患難は、実は恵みの具体化であり、恵みの甘い訪れです。患難を拒絶することは、恵みを拒絶することです。恵みはわたしたちの分け前としての神であり、わたしたちの享受のためです。恵みはおもに患難という形でわたしたちを訪れ、それによって神はすべて(すべての人、すべての事柄、すべての状況、すべての境遇、すべての環境)を共に働かせて益とならせます。すなわち、わたしたちがさらにキリストを獲得して、彼をわたしたちの存在の中へと造り込んでいただき、それによってわたしたちが新陳代謝的に造り変えられ、キリストのかたちに同形化されるようにし、また完全な子たる身分へともたらされるようにします——Ⅱコリント 12:7-9, ローマ 8:28-29。
- B. 患難は忍耐という結果になり、忍耐は練達、すなわち試みられた性格と良しと認められた価値を生み出します(ピリピ 2:19-22)。パウロは、彼と彼の同労者たちが「神によって良しと認められ、福音を託された」と言っています(Ⅰテサロニケ 2:4)。神は絶えず彼らの心を吟味し、調べ、試みたので、彼らの福音の語りかけは、彼ら自身から出て人を喜ばせようとしたのでは

なく、神から出て神を喜ばせようとしてしました：

1. I ペテロ第1章7節が言っているのは、わたしたちの信仰が試されることは、「朽ちる金が火(試練と苦難による火)によって試されることよりはるかに尊<sup>[い]</sup>」ということです。原料のままの金が純化する火の燃焼を受けるとき、だれからも容易に良しと認められる質を得ます——マラキ 3:3。
  2. 主はわたしたちに、代価を払って火のような試練を通して金の信仰としてのご自身を得てほしいのです。それは、わたしたちが真の金、すなわち、神聖な性質を伴う神聖な命としてのキリストご自身にあずかって、彼のからだを建造するためです。こうして、わたしたちは純金の燭台<sup>しゆくたい</sup>となって、金の新エルサレムを建造することができます——啓 3:18. 1:20. 21:18, 23. II ペテロ 1:4。
  3. 主を愛するある聖徒たちは、自分たちがある程度の命と光を持っているので、主のために働くのにふさわしい者であると考えていますが、彼らは生のみであり、良しと認められた質、すなわち、患難と試みを耐え忍ぶことから生じる、良しと認められた質に欠けています。この質は彼らの供給にあずかる人たちに、幸い、甘さ、心地よさを感じさせます。
  4. わたしたちはみな次のように祈らなければなりません、「主よ、わたしを良しと認められた者にしてください」。そのとき、主はわたしたちを良しと認められる者にする環境を起こされるでしょう。わたしたちはキリストの奴隷ですが、良しと認められることに欠けています。この事は神を悩ませ、わたしたちに損害を与え、聖徒たちと神の家族を煩わせます。わたしたちは、わたしたちの光とわたしたちの賜物によって聖徒たちを助けますが、良しと認められることに欠けていることによって、彼らを傷つけます——マタイ 24:45-51。
- C. 良しと認められることに加えて、わたしたちは望みを持ち(ローマ 5:4)、神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています(2 節)：
1. わたしたちは恵みの中に立っており、平和の中を歩いていますが、まだ十分に栄光の中に、すなわち、表現された神ご自身の中にいません。「わたしたちの受けるつかの間の軽い患難は、ますます卓越した永遠の重い栄光を、わたしたちにもたらす」のです——II コリント 4:17。
  2. あらゆる恵みの神は、キリスト・イエスにあってわたしたちをご自身の永遠の栄光の中へ召してくださいました。わたしたちは今ここで、わたしたちの栄光の望みとしての、わたしたちの霊の中に住んでいるキリストを享受しています——I ペテロ 5:10. I テサロニケ 2:12. コロサイ 1:27. ピリピ 3:21。
  3. 主は日ごとにわたしたちを聖別することによって、わたしたち、彼の多

くの子たちを栄光へ導き入れつつあります(ヘブル 2:10-11)。そして、わたしたちは日ごとに、ある段階の栄光から別の段階の栄光へと、徐々に造り換えられつつありますが、それは、わたしたちの心を主に向け続けて、イエス・キリストの御顔にある神の栄光を見つめることによります(IIコリント 3:16-18, 4:6 後半)。

- D. わたしたちは苦難の中でキリストを享受するとき、彼の命の中で救われつつあり、神のダイナミックな救いの有機的な目標を完成します。この目標とは、キリストの有機的なからだを生み出し、建造し、諸地方召会において表現することです。そこにおいてわたしたちは主の豊富な恵みを享受し、またそこにおいて平和の神はサタンをわたしたちの足の下に踏み砕き、彼の栄光の表現を得て、彼の勝利を展覧します——ローマ 5:10, 12:5, 16:1, 4-5, 16, 20。

*©2025 Living Stream Ministry*